

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F125310107324	設置等組織名	学校法人聖泉学園聖泉大学人間情報工学部人間情報工学科（仮称）
大学名	聖泉大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	滋賀	事業計画名	聖泉大学人間情報工学部人間情報工学科（仮称）設置計画

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ 1		1-① 令和6年8月～ 滋賀県経済団体連合会（6団体：滋賀県商工会議所連合会、滋賀県商工会連合会、滋賀県中小企業団体中央会、滋賀経済同友会、滋賀経済産業協会、びわこビジネスビューロー）に対し新学部設置説明の実施と今後の経済産業界における人材ニーズ調査依頼。 1-② 令和6年10月～ 滋賀県健康医療福祉部医療政策課に対し新学部設置説明と医療DX化に必要な人材ニーズ調査依頼。 1-③ 令和6年12月～ 新学部設立に向けたプラットフォームの立上げ。上記各連合会、上記医療政策課、学識者（主にカリキュラム開発に関する専門家）、地域会議所からの参画を予定。及びその依頼。及び先進大学視察開始。 1-④ 令和7年1月 近隣府県教育委員会事務局に対し、委託業者に依頼し、高校1，2年生への進路希望調査（工学系希望調査とDX化などデジタルデータ活用への興味関心などを問う）を依頼。及び実施。 1-⑤ 令和7年2月 調査結果を踏まえ、第1回プラットフォーム会議の開催。カリキュラムについても協議し、特にSTEAM教育をどう構築していくかを検討。 1-⑥ 令和7年3月～ 教員採用に関わる調査。及び入学試験について検討。 1-⑦ 令和7年3月～ 海外交流大学（中国、アメリカ、ベトナム）との連携の確認による現地視察。設置に合わせた協定書の作成を検討。 1-⑧ 令和6年8月～ 新学部設置室組織化（事務分掌）	1-① 令和6年11月～ 先進大学等視察及び実務経験者とのミーティング。 1-② 令和6年12月～ 滋賀県経済団体連合会（6団体：滋賀県商工会議所連合会、滋賀県商工会連合会、滋賀県中小企業団体中央会、滋賀経済同友会、滋賀経済産業協会、びわこビジネスビューロー）に対し新学部設置説明の実施と企業人事担当への採用意向などの事前調査（委託）。また高校生保護者向け進学推奨意向と新学部構想の評価に係る事前調査（委託）。 1-③ 令和6年12月～ 滋賀県健康医療福祉部医療政策課や地域上場企業に対し新学部設置説明と産業DX化と医療DX化に必要な人材のヒアリング。また高校教員や予備校職員に新学部構想の評価と進学推奨意向ヒアリング。 1-④ 令和6年12月下旬 事前調査結果を踏まえ新学部分野の志願者動向など文献調査（委託）。新学部構想に反映。 1-⑤ 令和7年1月～ 新学部設立に向けたプラットフォームの立上げに関して、上記各連合会、上記医療政策課、学識者（主にカリキュラム開発に関する専門家）、地域会議所からの参画を予定。及びその依頼。 1-⑥ 令和7年2月 事前調査結果を踏まえ、第1回プラットフォーム会議の開催。カリキュラムについても協議し、特にSTEAM教育をどう構築していくかを検討。 1-⑦ 令和7年3月～ 海外交流大学（中国）との連携の確認による現地視察。設置に合わせた協定書の作成を検討。 1-⑧ 令和6年10月～ 新学部設置室組織化（事務分掌）（R7.1.21承認）	R6年度自己評価	【2】計画を十分には実施していない。 事務分掌の再編や学内への情報共有や説明、また事前調査や学生確保に向けたニーズ調査などに係る委託業者の選定などに時間がかかり、フェーズ1での計画に大きな遅れが生じ、計画変更申請を行った。（R7.1.21承認） また、1-⑦ 海外交流大学との連携の確認による現地視察についても当初2名で渡航する予定だったが1名での渡航となり、その経費をその他（諸経費）としwebサイト構築のための費用への計画変更申請を行った。（R7.3.24承認）
				○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ 2 前倒し		2-① 令和6年12月～ 新学部設置に係るリサーチセンター（仮称）とインキュベーションセンター（仮称）を併せた情報工学棟（仮称）の建設調査。 2-② 令和7年1月～ 現在の人間学部使用施設及び教室の改修のための調査。		○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出		令和8年3月人間情報工学部人間情報工学科（仮称）認可申請予定			
フェーズ 1 後倒し		1-⑤ 令和7年5月 第2回プラットフォーム会議の開催。カリキュラム構成案の作成。 1-⑨ 令和7年6月から継続して随時プラットフォーム会議を開催。事務局からの提案と係る協議を経て実施。 1-④ 令和7年9月から随時 近隣府県教育委員会事務局に対し、委託業者に依頼し、高校1，2年生への第2回目の進路希望調査（工学系希望調査とDX化などデジタルデータ活用への興味関心などを問う）を依頼。及び実施。 1-⑩ 令和7年11月 カリキュラムの確定。教員採用に向けた調査継続。 1-⑪ 令和8年6月から継続して入試制度及び入学試験問題作成及び入試要項作成。 1-⑫ 令和8年3月～ 新学部学校案内パンフレット作成に向けた検討。		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ 2		2-① 令和7年11月～ 新学部設置に係るリサーチセンター（仮称）とインキュベーションセンター（仮称）を併せた情報工学棟（仮称）の建設。 2-② 令和7年11月～ 現在の人間学部使用施設及び教室の改修。 2-③ 令和8年7月～ 情報工学棟設置のための施設設備整備。		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増		令和9年4月 人間情報工学部人間情報工学科（仮称）開設予定（入学定員65人 工学関係・経済学関係）			
フェーズ 2 後倒し		2-③ 令和9年4月～ 追加的情報工学棟及び使用教室整備		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ 3		3-① 令和9年3月から継続してオーブンキャンパスの実施。新棟案内など。 3-② 令和9年6月から入学生募集に係る近隣府県高等学校への希望調査及び新しい入試制度の導入検討。 3-③ 令和9年7月から継続して主に県内就職先調査。 3-④ 令和9年8月から継続して海外交流大学との学生交流プログラムなど具体的な協議開始。及び実施期間の確定。 3-⑤ 令和10年5月～連携交流協定大学への留学生（R10.9-R11.2予定）募集と本学への受け入れ学生募集、海外企業へのインターンシップ調整。 3-⑥ 令和10年10月から科目等履修生募集及び履修証明プログラム制度検討。令和12年度より実施予定。 3-⑦ 令和10年6月から2回生による県内企業及び本学連携病院へのインターンシップ検討。 3-⑧ 令和10年後期から実務経験者による特別講義の開催と公開授業の実施。 3-⑨ 令和11年8月から海外インターンシップ実施。		○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ 3					
				○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止		①令和9年3月 人間学部人間心理学科廃止に係る届出予定 ②令和6年度より人間学部人間心理学科募集停止（減員数75名、人文科学関係）			

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	聖泉大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。					
	<table><tr><td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。					
	<table><tr><td>認定を受けておらず申請する意向もない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	聖泉大学
-------------	-------	-----	------

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）
- チェック

■ チェック

■ チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a. 本学と地域連携で協定を締結している近隣の市町（彦根市や米原市）の地域課題について、それぞれの自治体と連携してフィールドワークなど実習を取り入れながらPBL 型授業科目を複数開講する。例えば、現在行っている彦根市や米原市の自治体との連携では、健康づくりウオーキング（大河ドラマに思いをはせて”城下町”を歩く）を実施しており、さらにウオーキングにおいて収集できるデータを解析しながら、人間の健康作りをサポートし、PHR（Personal Health Record）について新しい価値やアプリ開発をテーマに生活の質向上に向けた取組みを展開していく計画である。 b. 県内に位置する龍谷大学瀬田キャンパスの先端理工学部データサイエンス関連科目との合同化を検討する。 c. 中国湖南省10大学と交流協定を締結していることから、コロナで閉ざされた交換プログラムを再開していくための計画を進めていく。また、本年度県内事業者におけるベトナム人材の受入れを促進するため、滋賀県、	a.健康づくりのテーマに関して、企業がもつアプリ等を介した連携事業を始めているところである。計画とおりである。 b. 大学との連携では、他大学との連携を計画しており、実施に向けて他の大学とも連携の検討中である。 c. 中国との交流大学との連携は令和 6 年度現地を訪問し交換プログラムについて実施していく計画となっているが、ベトナムのハノイ工科大学との連携については、令和 6 年度調整がうまくいかず検討している段階である。ミシガン大学については、令和 6 年度客員研究員として 1 名がその宣証を得ることができ、参加した。引き続き連携していく。	海外（ベトナム）との交流について、渡航に係る費用や先方との日程及び教育内容に係る調整が難しい。

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- チェック

□ チェック

■ チェック

■ チェック

■ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a. 本学アドミッション室が中心となり県内高等学校や近隣府県高等学校への説明会実施、入学者選抜における試験科目の見直しと新たな入試枠の設置（海外研修枠予定）を検討する。 c. 今年度より文科省指定WWL事業内のコンソーシアム連携県内高等学校と本学連携私立高等学校 5 校へ科目等履修（先取り履修）科目の提供を行っており、継続して高等学校と連携していく。また県教育委員会と連携して高校生に本学の講義を夏季休業中に実施する。 d. 地域の企業に勤務する社会人の方に、広くリカレントを進める学内体制を整える。新学部学生とともに学修を進めることで地域への有能な人材が増えることが期待される。 e. 中国湖南省10大学については、現在も留学生を受け入れており引き続き実施予定である。また、ベトナムのハノイ工科大学からの留学生についても、中国からの受入れを実施していることからそのノウハウは持ち合わせているため、ハノイ工科大学と交渉を進める	a.計画とおり検討しているが、説明会については認可申請後となる。 C.高等学校への科目等履修科目の提供を行い、7 校から高校生を受け入れた。 D.地域の商工会議所を通じて、リカレントを進める計画である旨を伝え、プログラム体制を検討している。 E. 中国とは引き続き受け入れる体制はできた。一方、ベトナムのハノイについては、先方等との調整に時間を要しているが、交渉していく計画である。	海外（ベトナム）との交流について、渡航に係る費用や先方との日程及び教育内容に係る調整が難しい。

大学名	聖泉大学
-----	------

1. 本事業対象となる学部等の状況

<合計>

[illegible]

大学名	聖泉大学
-----	------

本事業対象となる学部等の個数	1
----------------	---

1.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	人間情報工学部人間情報工学科

[illegible]

大学名	聖泉大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	90	90																	
		入学者数	人	72	77																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	90	90																	
		入学者数(B)	人	72	77																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.80	0.86																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	575	510																	
		編入学定員	人	20	20																	
		在籍者数(D)	人	428	373																	
		編入学者数	人	0	0																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.74	0.73																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		10,145	19,142	16,378	21,962	10,761	8,975													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）（E）	千円	15,427
本事業による助成金の額(F)	千円	800,508
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	35,440

特記事項